

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和3年度 第1回臨時総会別添資料

2022. 3. 13 (日) 13:00~15:20

開会挨拶

内田会長：皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中御参加いただきありがとうございます。

まず初めに、先日、全国に匿名で送付された私に関する怪文書について、皆様に多大なるご迷惑と、御心配をお掛けしたことに、お詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。このことについて、明確にお答えすることがボクシング統括団体の会長としての責務とっておりますので、詳細にご説明させていただきます。結論から申しますと、怪文書の内容は、事実とかけ離れた内容です。

この件に関しましては、即日警察に被害届を提出し、複数の弁護士で対応しております。法的措置をとるため、証拠として、都道府県連盟に送付された文書は回収させていただきました。御協力頂きました都道府県連盟には感謝申し上げます。怪文書が送付されていない都道府県もあると思いますので、経緯を説明させていただきます。

今年の3月1日、宮崎市内の複数の飲食店に怪文書が届きました。翌3月2日には、複数の都道府県連盟に怪文書が届いていると連絡をいただきました。発送元は、東京都の至る所で投函されており、怪文書そのものであります。投稿者は、連盟会長の会社役員が、持続化給付金で逮捕されており、その金額が億単位であり、組織的犯罪を行っていると述べています。もちろん事実ではありません。もし、私の会社の役員が組織的犯罪で持続化給付金詐欺をしていたら、私はこの場所に居ることはできません。私の会社の役員が、このようなことに関わったこともありません。I Y氏が私の会社幹部で、大麻取締法違反及び新型コロナウイルス対策の持続化給付金詐欺で逮捕されたという記事については、あたかも私が反社であるかのような文書が紐づけて書かれていますので、詳しく御説明します。

I Y氏を雇用していたのは、平成25年2月1日から平成29年1月31日、アルティメットサービスでアルバイトとして雇用。その後、平成29年2月1日から平成29年11月3日、有限会社UMNTの正社員として採用。しかし、平成29年11月4日マリファナ所持で逮捕。つまり、彼が辞表を出し退社した翌日に逮捕されましたが、私は辞表を受領した時に逮捕されたことは知りませんでした。I Y氏の父親は、役所勤務で、剣道師範でもあります。私はその親御さんと家族から、辞めさせず更生させて欲しいと懇願され、社会復帰をサポートするために受け入れました。平成30年3月1日、メディアステーション業務委託という形で雇用。その後、勤務態度も良好であったので、令和3年1月1日から令和3年7月8日、株式会社UMA社員として採用しました。しかし、令和3年7月9日覚醒剤所持及び、使用で逮捕。その拘留中に、持続化交付金の助成金詐欺で再逮捕。詐欺事件に関しても、私たちの全く面識のないI Y氏の知人とI Y氏が行ったものであります。怪文書に記載された私の会社で詐欺の申請をしたことや、会社ぐるみで組織的犯罪は事実無根であり、意図的に私を陥れるために書かれた内容であります。

しかし、I Y氏を再雇用したことは、親御さんに頼まれたことであつたとしても、軽はずみであつたかもしれません。確かに反省すべき点はあると思います。実はこのことだけではなく、過去に道を誤ってしまったけれども、一生懸命生きなおそうとする人々の更生や、社会復帰を私はサポートしております。彼らに働く場所や、信じてくれる相手が居ることを伝え更生を促してきました。殆どの方は働く意味を知り、社会人としての責任を果たしていますが、残念ながらI Y氏には、親御さんや私の思いは届かなかったようです。

その他、無料案内所、客引き、誘導などが条例違反である記載がありました。あたかも、私がこれらをしているので、客引きに対する条例が出来たかのような記載がありますが、私の会社は法令遵守しながら案内所の経営をしております

し、飲食店でも客引き等で行政から指導を受けるようなこともありません。2018年の日本連盟の会長就任の際にも、同様の怪文書が出回りました。今回も、投函した人が違っていても、書き方や方法は同じです。非常に残念なことではありますが、ただ言えることは、私は私なりに経営の在り方を築いております。数名の弁護士の先生に常に相談しながら慎重に会社経営をしております。何卒、皆様の御理解をお願い申し上げます。皆様が不安になるお気持ちは重々承知しておりますが、これからもお力添えいただきますよう、よろしく願いいたします。

## 1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

### (1) 決議事項

#### 第1号議案 令和3年度事業計画案及び予算案の承認の件

##### ・事業計画案について

仲間専務理事：2022年度の活動計画については事前に共有しているが、日本連盟がやっていること、やらねばならないことをシンプルにまとめている。活動計画書については、理事会で承認をいただいている。年間についても、事前に共有しているので見ていただいていると思う。未定のところがいくつかあるが、決定次第に報告させていただく。

##### ・予算案について

豊田事務局長：収入について、一昨年は、コロナの影響で活動出来なかった。今年度は、海外も少しは行けるようになり、全日本選手権も行えたり、一部活動が行うことが出来た。来年度については、コロナの影響をそこまで受けることがないということを前提に予算を作成している。

経常収益については、維持金、登録料は、特段大きな影響も減少もないと考え、例年通りのほぼ横ばいで作成した。

事業収益についても大きな影響はなく大きな増減はない考えで作成している。

受取補助金等について大幅に増額としているが、ボクシング連盟の評価が高かったこと、大会成績も良かったことから、JOCから強化費を9,000万円貰えるだろうという見込みにしている。これは、オリンピックと世界選手権のメダル獲得の評価が高かったことと、事務レベルが今季ワンランク上がり最上位となったことからの見込みである。9,000万円の内、7,000万円が男女強化費、あとはコロナ対策費と新しい方法の強化費で2,000万円を見込んでいる。

スポーツ振興基金は、一昨年まではほとんどなかったが、今期開催した全日本選手権大会、社会人、全日本ジュニアの事業費を申請しており、何とか1,000万円を獲りたいと考えて計上している。

くじ助成金もJSC助成であるが、マスボクシングとか、アンチドーピングで使用している。これに、来年度は育成資金を申請しており、ジュニア層の強化、普及に充てたいと考える。

協賛金関係は、美津濃財団、スポーツ庁、ダスキン、京王観光が資金を出していただけそうであるので増額となる。

支出について、事業委託費は、各ブロックにお願いしている大会への日本連盟の一部負担で1,000万円を計上している。

交通費、滞在費関係は、主に強化で支出する。

雑役務費については、大会ごと、遠征ごとに使用しているPCR検査や抗原検査の費用として計上している。

各委員会から要望があって検討した、委員会事業費として、アンチドーピング委員会に55万円、広報委員会に40万円、スポーツ科学委員会に60万円、審判部会に40万円、プロアマスポーツ交流委員会に25万円を計上したので、各活動に使用していただき、年度末に実績の報告をいただきたい。

来年度から登録システムを稼働したいので1,000万円計上し、4/10から稼働の準備

を進めている。

管理費については、事務局関係、会議関係の運営費として3,870万円を計上している。

予算として18,660万円を計上し、バランスよく進めていきたい。

・事業計画案についての質疑

中村理事：開催期間未定の令和4年度全国選抜大会は、令和5年3月20日から3月24日、UJフレッシュ大会は3月24日から26日に福岡県で開催を検討中であると、池端理事から報告を受けている。

・予算案について

宮村氏(石川)：放映受取料が予算計上されていないが、来年度の全日本選手権の放送はないのか？これまで、NHKが地上波で1時間、BSで2時間放映していたが、今年度はフジTVで深夜2時、3時台の放送であった。それに至った経緯と、フジTVに放映権が移ったメリットがあったのか聞きたい。

井崎専務理事補佐：今回、NHKを外してフジTVにしたのは、そもそもフジTVにすることが前提ではなかった。我々日本連盟が著作権を持つことが目的であった。

お金の話をすると、NHKは微々たる金額であり、一切の著作権を我々が持つことが出来ない旨であった。連盟の今後の発展を考えた時にどうなのかということと、広告を入れることをHNKから禁止されているので、メリットがないということになった。NHKの全国中継はメリットがあるとは思っているが、フジTVは深夜であるがネット中継が出来たと思うので、視聴者にとってはNHKのBSよりも、明らかに視聴者獲得については増えていると思う。NHKの全国放送がなくなったこと自体はデメリットに見えるが、総合的に考えた時にメリットが大きいと我々は考えた。

中島氏(茨城)：ネットも含めてメリットがあったといわれるが、視聴者数は概算でも出ているのか。

井崎専務理事補佐：今は出せてはいない。NHKのBSでも視聴率は出ない。一概に比べることは出来ない。今回の放映は、予選も含めて4日間放映していることと、日連とスポーツビズ、フジTVの番組のティーバーを併せると確実に視聴数はNHKを上回っていると考えられる。

中島理事：後日で良いので数字が出たら教えて欲しい。私の関係者がフジTVに確認したが、全日本選手権の深夜番組の視聴率は、ドラゴンボールと僕らの時代とボクシングの三本を併せて放送しているが、3本で0.3%と聞いている。3本併せて0.3%であるから、業界としては視聴率としては計算しない数字だと聞いた。井崎さんの言われる色んなものを併せた数字を後日教えて欲しい。

井崎専務理事補佐：フジTVの深夜放送については、当初から凄いい数字が出ると見込んでいた訳ではない。夜中に起きて見てください、録画してくださいというよりは、それを後追いで放映するティーバーやフジTVオンデマンドみたいな、あとでPCやスマホのネットで見られることがメリットがあったと思う。これに関してはフジTVから数字を貰っていなかったもので、これらの数字を含めた数字とさせていただきたい。

西山氏(岡山)：事業収益の協賛金について、広告料が増加しているとのことであったが、協賛金については350万、広告については前年度対比で500万円減となっている。また、管理費の給料手当について、612万円減になって、諸謝金が90万円増加になっている。これについて説明をお願いします。

旅費交通費について、2,180万円増加しているが、これは強化で全て使用すると言われたが、倍くらい増額となっており、強化にかなり力を入れられていると理解した。

指定正味財産増減の部に数字が入っていない。指定正味財産というのは、公益法人を目指す上で、現在では数字がないのか。

豊田事務局長：受取協賛金は、前年度予算 450 万円で計上している。今回、美津濃財団とかスポーツ庁、ダスキン、京王観光からの協賛金をその他で計上しており、振り分けを替えている。このあたりで増えてくる予定である。

受取広告料は、前年度予算 1,500 万円で計上していたが、実体的には 930 万円であるが、大会が開催されればもう少し増えて来ることを考えている。

これらは、その他の部分を含めて増える見込みである。

旅費交通費が増額となった理由は、海外遠征にコロナで行けなかったのが、行けるようになったことである。

給料については、従来給料で手当としていた者もあるが、私自身は契約になるので、謝金に変更となるため実質上は一部振替になる。管理費自体は増えていない。

指定正味財産については、現在は一般会計であるため入らない。公益会計になれば変わってくる。

坂巻議長：令和 4 年度事業計画案について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし・満場一致で可決。)

坂巻議長：令和 4 年度予算案について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし・満場一致で可決。)

## (2) 審議・報告事項

### 第 1 号報告 年間ランキング及び年間表彰について

#### ・年間ランキングについて

仲間専務理事：資料は既に送付しているが、ジュニアのランキングがチャンピオンという表記ではなく 1 位という表記になっている。訂正版は後ほど送付させていただく。ランキングについては、皆さんも見られていると思うが、理事会で報告し議決されているので報告させていただく。

三浦氏(山形)：シニアウエルター級の岡澤セオンがチャンピオンでなく 1 位になっているが、これは全日本選手権に出場していなかったからか。

仲間専務理事：おっしゃるとおりである。理事会でも議論があったが、現行としては全日本選手権の結果に基づき決定しており、国内大会だけを反映している。今後、世界大会までを含めたものを作成すべきか、議論が必要かと思うので御理解をいただきたい。

樋山氏(奈良)：強化委員会で決定したことなので何も言えないが、国内大会を優先してランキングを決めたとのことであるが、海外世界選手権何点とかポイント制にして行けば問題が無くなるのではないかと思う。今後、是非考えていただきたい。ジュニアはポイント制にして決めているが、それも考え方を合わせていただきたい。

仲間専務理事：これらについては、強化委員会で再度協議していただく必要があるかと思う。委員会で協議していただき、理事会に上がる段階で統一できるようにやっていただけたらと思う。今までのランキングの考え方は、ここまで世界で活躍することを想定していなかったのだと考える。今後、委員会や理事会でしっかりと話し合いをしたいと思う。

#### ・年間表彰について

仲間専務理事：各地の正会員のご指導、選手の頑張り、各委員会の献身的な努力のもと素晴らしい結果となった。強化委員会で原案を作成いただき、理事会で色々と議論したが、なるべく多く表彰したいので、男子、女子それぞれで表彰者を決定した。

また、素晴らしい選手を育成したことを表彰するため、Developer 賞として表彰することとした。選手を献身的に指導した都道府県の正会員の方や、都道府県連盟で一生懸命ボクシングに取り組んでいただいている方々を評価させていただき、表彰する機会が少ないのではないかということから、感謝の意を込めて表彰することを目的とする。

令和3年度(2021年度)年間表彰

女子部門

○最優秀選手賞

入江 聖奈(日本体育大学)

- ・国際大会  
2020 東京オリンピック 金メダル  
ASBC アジア U22 ボクシング選手権大会 金メダル  
コンスタンチン・コロトコフ記念国際トーナメント 金メダル
- ・国内大会  
全日本選手権大会 優勝

○優秀選手賞

並木 月海(自衛隊体育学校)

- ・国際大会  
2020 東京オリンピック 銅メダル  
コンスタンチン・コロトコフ記念国際トーナメント 金メダル
- ・国内大会  
全日本選手権大会 優勝

○技能賞 田中 鈴華(芦屋大学)

- ・国際大会  
コンスタンチン・コロトコフ記念国際トーナメント 銀メダル  
ASBC アジア U22 ボクシング選手権大会 銀メダル
- ・国内大会  
全日本選手権大会 優勝

○敢闘賞

加藤 光(東洋大学)

- ・国際大会  
ASBC アジア U22 ボクシング選手権大会 銅メダル
- ・国内大会  
全日本選手権大会 優勝

○努力賞

津端 ありさ(コサカボクシングジム)

- ・国際大会 コンスタンチン・コロトコフ記念国際トーナメント
- ・国内大会 全日本選手権大会

○新鋭賞

原田 美琴(東海大熊本星翔高校)

- ・国際大会 AIBA 世界ユース選手権大会
- ・国内大会 全日本女子選手権ジュニア大会

○最優秀賞コーチ

伊田 武志(シュガーナックルジム)

銀メダル 優勝

出場 優勝

女子強化委員立ち上げ当初から、強化委員長の重責を担う中、入江選手の金メダル獲得に大きく貢献した。

## 男子部門

- 最優秀選手賞  
田中亮明（中京高校教諭）  
※東京オリンピックフライ級銅メダル
  
- 優秀選手賞  
坪井智也（自衛隊体育学校）  
※2021 セルビア世界選手権バンタム級金メダル  
岡澤セオン（INSPA）  
※2021 セルビア世界選手権ウェルター級金メダル  
東京オリンピックウェルター級1回戦勝利
  
- 敢闘賞  
森脇唯人（自衛隊体育学校）  
※東京オリンピックミドル級代表1回戦勝利  
堤 駿斗（東洋大学）  
※東京オリンピック銅メダル元世界選手権金メダリスト  
「ラサロ・アルバレス」に勝利。近年キューバ代表に初めて勝利
  
- 技能賞  
堤 麗斗（東洋大学）  
※世界ユース選手権ライト級金メダル
  
- 殊勲章  
秋山佑汰（自衛隊体育学校）  
※全日本選手権 MVP  
荒竹一真（駒澤大学）  
※世界選手権ベスト8、U22 アジア選手権銀メダル
  
- 努力賞  
成松大介（自衛隊体育学校）  
※2大会連続（リオ、東京）オリンピック出場  
東京オリンピックライト級代表1回戦勝利
  
- 新鋭賞  
吉良大弥（王寺工業高校）  
※世界ユースフライ級ベスト8、インターハイフライ級チャンピオン
  
- 最優秀コーチ賞  
小山田裕二（駒澤大学）  
※田中亮明銅メダル、全日本チャンピオン3名（西山、北本、若谷）輩出
  
- 特別功労賞  
シン・ウラジミール（日本代表コーチ）
  
- 年間最高試合（同点が3試合）  
堤 駿斗対ラサロ・アルバレス（キューバ、世界選手権3度金）  
坪井智也対シャホビディン・ゾイロフ（ウズベキスタン、リオ金）  
田中亮明対ユベルヘンエルネイ・マルティネスリバス（コロンビア、リオ銀）

Developer 賞

川端 雅彦氏 (シュガーナックルジム)  
入江聖奈 選手を育成

矢田 圭一 (自衛隊体育学校)  
並木月海 選手を育成

糸川 保二郎 氏 (岐阜県連盟副会長)  
田中亮明 選手を育成

中野 博文 氏 (ジム経営者)  
坪井智也 選手を育成

荒竹 俊也 氏 (鹿児島県連盟常任理事)  
岡澤セオン 選手を育成

(質疑なし)

第2号報告 業務権限規程策定について

仲間専務理事：日連の色々な重要な業務執行について、重要業務の業務執行機関及び業務執行者の権限を定めていなかったため、業務の適正かつ効率的な執行を図るために規程を策定し、一つ一つ明確に対応できるようにした。

(質疑なし)

第3号報告 来年度コーチ設置事業対象及び人件費について

仲間専務理事：来年度コーチ設置事業について JOC に提出した。JOC のコーチ設置事業の概要が事前にシェアしている資料のように名前が変わっている。現行のナショナル及びアシスタントコーチについては JOC の雇用から最終的には謝金での対応になる。雇用が必要であれば連盟で対応する。ナショナルコーチ：ハイパフォーマンスディレクターはシン氏で継続。アシスタントコーチの菊池理事については終了。及川事務局次長と中村事務局員はジュニアアスリート担当：ナショナルコーチ A で継続。NTC 担当であった竹田コーチはナショナルコーチ A で、鈴木事務局員はナショナルコーチ B (強化事務) で、垣内氏は (ロシア語通訳) としてナショナルコーチ B で、寺中氏はトレーナー B：ナショナルチームスタッフ B、富岡マネージャーに関してはナショナルチームスタッフ A で申請している。

西山氏：お金の流れは、JOC から直接コーチに振り込まれるのか？日連に一回入ってから、みなさんに支給されるのか？

豊田事務局長：この制度については、直接 JOC が源泉税を差し引き、各コーチに振り込むことになる。事務局を通ることはないの、会計にも記載していない。

西山氏：わかりました。

仲間専務理事：スタッフの人件費についての話をします。強化遠征費の不足もあり、謝金というものを停止していたが、強化委員会からの要望もあり、海外遠征スタッフに対して、移動日を含めない日程で、日当 3,000 円の支給を行いたい。少しでも現場の負担感を減らしたいのでよろしくお願いします。

JOC の助成金の対象経費にもなることを、豊田事務局長にも確認していただいて対応している。連盟の財政に大きな圧迫になるものではないです。

第4号報告 事務局長謝金に関して

仲間専務理事：豊田事務局長は雇用ではなく業務委託契約という形の謝金対応になっている。2019 年からアドバイザーとして、2020 年 8 月からは事務局長として日連の事務レベルの向上と助成金や補助金・スポンサーの獲得に尽力して貰っている。事務レベル 3 と最下位

であったが、この2年でレベルアップして、2022年度はレベル1になった。連盟の事務局長としての貢献は明らかである。JSCからの助成金20%カットもなくなり、多くの助成金を獲得している状況である。現状テレワークという勤務ではあるが、毎日出勤という勤務体制ではないにも関わらず、日連事務局へのメールの対応などもやってもらっている。そのような成果から、38万円から50万円（税抜き）に謝金を増額することを理事会で決議した。これ以後も実績に勘案して、再来年以降も場合によって、事務局長の働きに応じた対応をしたいと考えている。

#### 第5号報告 役員候補者選考委員会の設置並びに委員について

仲間専務理事：次期役員改選についてであるが、今までは理事会で役員候補者を決定して総会で審議、決議するという流れであった。しかし、スポーツ庁から指導を受けているガバナンスコードや公益法人化を目指すことにより、役員候補者選考委員会を設置して選考することを決定している。JOCからの処分を解除することにおいても日本連盟の大きな課題であった。大まかに説明すると、理事会から役員候補を出すのではなく、役員候補者選考委員会が候補者の資質を審議決定した後、総会で決定するという流れになる。具体的な役員候補者選考委員会の規程がありますのでシェアします。

委員は5名。正会員から1名、監事1名、有識者から3名で5名のうち少なくとも1名は女性とする。委員についてはコンプライアンス委員会で審議し、理事会の決議、承認を得て、この後、皆様に承認を得て会長が委嘱する形になります。

コンプライアンス委員会、理事会を経て5名を選任しているので報告します。

有識者枠3名のうち外部から、古谷利彦（JOC理事：公益財団法人日本カヌー連盟専務理事）・永岡桂子（政治家）様、元理事である門田治（医師：アンチドーピング委員会委員長、医事委員会副委員長）様、正会員枠から四橋英児（岐阜県ボクシング連盟会長）様、監事枠から岩井翼（弁護士）様の5名です。次回の役員改選の際には候補者について審議していただき、承認された方が正会員に審議、決議を総会で諮られる形になります。

西山氏：役員選考委員会規則第6条と役員選考方法に関する規程第7条の違いについて説明をお願いします。

仲間専務理事：理事会には提案するが審議、決議はしません。理事会には提案という言い方は誤解があるので、今後規則については提出するというように、表現については理事会で直させていただきます。

西山氏：候補者選考方法第6条と役員を選任、定年に関する規則の第2条について…

仲間専務理事：すべての規則を過不足、矛盾なく直すというのはタイムライン的に不可能なので、役員候補者選考委員会の設置については、上部団体からの指導ですので、矛盾がある部分については、後からある規則の方を適応していくことになると思います。ご指摘ありがとうございます。

西山氏：わかりました。

三浦氏：ブロック理事が存在しないと東北ブロックでの情報共有や運営において課題がある。以前のようにブロック代表理事をお願いできないか？

仲間専務理事：JOCから指導を受けている。理事会の適正化を考えても、ブロック理事の選考をしようとする人数的に難しい。スポーツ庁から、女性理事の選任を40%にしろという指導もある。他の競技団体は達成しつつある。日本ボクシング連盟は、次の役員改選で20%を達成したい。その次の役員改選では40%に達成したいと考えている。上部団体からの指導に対して考えると、女性理事の確保が急務である。まずは40%の女性理事の確保という観点から動かなければならない。理事会だけで判断することではないが、女性で理事として活躍する人を探すということが第一である。「理事数についてはミニマムにしてください。女性理事も選任してください。アスリート委員長も理事として選任してください。外部の割合も増やしてください。」つまり、ボクシングを競技として携わっている人以外の意見を、ニュートラルに受け入れる団体にしてくださいというのが、スポーツ庁からの指導ですので、残念ながら9名のブロック代表理事の選任は難しいと考える。現状はブロック委員会があるが、その中から理事の選



任においては、役員候補者選考委員会を通して審議することはできる。しかし、上部団体の指導において、難しいということを理解してほしい。日本全体のスポーツ競技団体の流れであることも理解していただきたい。

その中で情報共有については、以前ブロック理事が行っていたことを、ブロック委員会に変更しているということをご理解いただきたい。

三浦氏：推薦者の名簿を見た。個人情報になるから我々は書けないのでは？

仲間専務理事：公益社団法人を目指しているが、その財団の理事を受けるということは、その個人の情報を公開することについては、ある程度必要になると思う。その他に個人情報が流出するというには避けなければならないが、その団体の中で立候補するのであればご理解をいただきたい。必要なプロセスであると思う。

三浦氏：わかりました。

中島理事：先ほどの専務理事の話を確認させてください。役員候補者選考委員会で審議したものを総会で出すのか？

仲間専務理事：はい。

中島理事：わかりました。

岩井監事：中島理事からの質問ですが、理事の候補者は理事の選任する議題に対する、一つ一つの議案・素案を作る立場と思うので、総会に出すのは理事会で決議された議題に基づく議案ということになるので、一度、理事会で決議されることはないのか？

仲間専務理事：理事会を経るという形になると、理事会でひっくり返る懸念もあるので、理事会に報告する形になると思う。岩井監事が法的に理事会で決議し、提出する必要があるならば、理事会で決議をとっての形になると思う。

岩井監事：総会の議題は正会員の皆様も出せるものではあるが、一時的なものは、理事会で決議された具体的な議題及び議案を理事会で決議されたものを総会に出すものと思っていた。

仲間専務理事：ご指摘ありがとうございます。そのことについて、一度理事会で提出していただいて理事会議案として決議をした後に総会に提出するように、役員選任規則と選考委員会規則の文言を整えたいと思います。

岩井監事：顧問の山崎先生とも確認してください。

仲間専務理事：はい。ありがとうございます。

中島理事：そのことについて顧問の先生にお預けして、もう少し議論をした方が良いのでは？

仲間専務理事：山崎先生と話をし、その結果を報告させていただきます。

中島理事：そうしてください。

#### 第6号報告 ウイニングのグローブ・ヘッドギアの日連公認について

菊池理事：ヘッドギア、グローブにおいて、アディダス、タイサンを日本連盟で検定して販売している。

ウイニングがヘッドギア、グローブについて、日本連盟に参入する旨の説明をします。

今、共有している資料が検定の契約書です。第1条が対象になります。アディダス、タイサンについては、ヘッドギア、グローブに検定シールを貼って、ナンバリングをすることで管理しています。その点がウイニングとは相違あるところです。ウイニングからは、年間150万円の寄付を日本連盟にいただいております、この形を変えずに、検定料として考えたいと思う。予測する販売数からすると、150万円の検定料は多い金額と考える。UJ用のグローブの販売もなくなり、10オンスのグローブを使用することになる。そのような旨が契約書に記載されています。

最終的に、この場でご報告をした後、契約書の締結になります。よろしく願います。

#### 第7号報告 競技規則の改訂について

林田理事：新旧対照表の通り、IBAの競技規則の変更に伴うものと、マスボクシングの競技実施に伴う変更である。ご承認よろしく願います。

(質疑なし)

#### 第8号報告 審判規程の改訂について

林田理事：今まで国際審判員（帯同審判員）の派遣についてと、公認審判員復帰に関する規程がなかったことから審判規程に追記して定めた。ご承認よろしく申し上げます。  
(質疑なし)

#### 第9号報告 公益認定化に向けた進捗状況に関して

仲間専務理事：内閣府からは、役員選考規程などをはじめとする規則例などもきちんと整理されて日本連盟ホームページに記載、閲覧ができたり、理事会、総会の内容なども議事録としてホームページにて第三者が閲覧できるところに高い評価をいただいている。公益認定の最終段階にきている。富岡マネージャーが内閣府担当と密にコミュニケーションをとって対応してくれている。日本ボクシング連盟が社会的に認められる団体として証明するために頑張っていきたいし、そのような中で役員選考などをはじめ、皆様にもお願いすることもあると思うがご理解をよろしく申し上げます。

西山氏：日本連盟ホームページに、公益プロジェクト2020がある。この中に内田会長の公約が4項目あるがこれについて具体的に何をやられたのか、現状分析と進捗状況、いつまでにどうするというような将来の展望を簡潔にお聞かせ願いたい。

仲間専務理事：そのような要望があるならば、総会前に事前にしてほしい。いかがですか？

西山氏：わかりました。

内田会長：社会的信頼の回復、公益法人化を目指すというところには最終段階に入っていると報告を受けている。できれば本年度中と思っているが、早い段階で実現されると思っている。間違いを指摘しあえる責任ある組織運営に関しては、今は十分に意見を言える環境にあると思う。前体制の理事会、総会では意見の交換がなかったと思う。その中で自由に発言できるようになってきたと思う。自己財源の確保については、現在取り組んでいて、グランドプロジェクトやスポンサー確保について力を入れている。いつまでとは言いきれないが、近い将来、自己財源が確保できるように努力している。国体隔年開催からの毎年開催復帰についても、現在良い方向で進んでいると連絡をいただいている。そういった状態です。

西山氏：わかりました。

小斎氏：グランドプロジェクトの現状を教えてください。

内田会長：8割程度完成している。撮影段階に入る手前である。できれば5月、6月の発売を目指し企業と打ち合わせをしている段階である。

小斎氏：ありがとうございます。もう一点、以前プロの協会から3,000万円ほどの投資の話があったと記憶しているが、その後どうなったのかをお聞きしたい。

内田会長：プロ側との関係は良好に進んでいる。3,000万円の投資の話は記憶にないので、再度確認をしてみます。

小斎氏：わかりました。ありがとうございます。

奥原氏：国体隔年開催のことについて伺いたい。2028年に長野県で国体が予定されているが、隔年開催の年である。3月に決まるというお話であったがそれは先なのでしょうか？

仲間専務理事：現在は移行調査の段階である。今後ヒアリングなどを通して決定されると思う。

奥原氏：ありがとうございます。以前、菊池理事から公益認定化についてお話があり、本年度中に認定されると思っていたが、その点はまだ時間を要するということか？

仲間専務理事：先ほど内田会長も申し上げたが、何とか今年度中に通知をいただきたいと考えている。こちらから提出した資料も辞書一冊分ぐらいの枚数である。内閣府も時間がかかると思う。問題なく進んでいるが、残念ながら今年度中に通知を貰えるかというところとも言えない状況である。

奥原氏：公益化に認定されれば、国体の隔年開催も改善されると思う。よろしく申し上げます。

中島理事：3月に書類を出して国体の隔年開催を戻すということであるが、私が聞いた情報では、国体の隔年開催が5年延びたと聞いている。いわゆる戻ったとしても2028年からと聞

いている。先ほどの会長と専務理事の話とは相違がある。

仲間専務理事：どこからの情報なのか？

中島理事：日本連盟としてその情報は入手できていないのか？私の情報が正しいばかりとは思えないので、そういう情報もありますけど大丈夫ですか？3月に書類を出すことで大丈夫か？どの辺を見据えての時期を言われているのか？

仲間専務理事：82回（2028）から85回（2031）大会の実施希望について3月11日が締め切りだったので提出した。

中島理事：それはまだ確定したものではないですね。

仲間専務理事：今まで通年開催であったものが、次から隔年開催になる。隔年開催になったものをその次で戻すことになる。4年ごとに見直すので2028年から2031年の大会の希望調査を現在提出している状況である。

豊田事務局長：今、仲間専務が言われた認識でよろしいと思う。

吉沼理事：私の認識では隔年の競技が銃剣道競技であったが、銃剣道競技が通年になり、隔年の競技がクレー射撃になっている。その辺の情報の確認をお願いしたい。

富岡マネ：2024年（佐賀県）、2026年（青森県）の国体が隔年のためボクシング競技は開催されないことが、3期の実施競技選定で決定している。

現在は第4期の実施競技選定（2028～2031）の資料を提出している。吉沼理事の質問のクレー射撃競技との隔年開催の認識で間違いない。

及川事務局：銃剣道競技が通年になった。ボクシング競技は銃剣道競技と競っていたが、今度はクレー射撃競技と競うことになった。

仲間専務理事：2027年までは決定している。2028年から2031年までの通年開催にむけて努力したい。

#### 第10号報告 女子普及委員会からの要望について

仲間専務理事：全日本社会人選手権大会に女子のカテゴリーを入れてほしい要望があった。出場選手数などの調査も必要であるが、来年度開催予定地である安川理事からも、理事会にて問題は無いのであろう。という発言があったので、前向きに進めていきたいと考えている。

（質疑なし）

#### 第11号報告 アスリート委員会からの要望について

仲間専務理事：成松氏から国際大会の選手選考や帯同ドクターについて要望を受けている。選考規程を男女同一にできないか？選考会をやってほしいなどの要望があった。アジア大会の選考についても女子のフライ級とフェザー級以外の階級については選考会を行うように結論した。アジア大会の出場階級枠の情報入手のタイミングが遅いため、対応が難しい部分もあるということをおアスリート委員会にはご理解をいただきたい旨を伝えている。

国際大会のドクターの帯同については、オリンピックやアジア大会についてはJOC派遣ドクターの帯同ができる。世界選手権大会やU22の大会ではNFから派遣するIF主体の大会においては、選手団がボクシング競技のみであり、海外のドクターに依頼することになる。カットの処置などにおいて言葉や医療レベルの課題があるの

で、できる限り対応したい旨を伝えた。

次期の役員改選においてアスリート委員長を理事に選任することをJOCから指摘されている。これからはコミュニケーションがとれると考える。

小斎氏：以前、委員長は理事になれないと聞いているが、定款の変更なのか？

仲間専務理事：定款ではなく役員選任規則の内容であり、JOCからの要望なので役員選任規則を変更する必要がある。基本的には委員長は理事になれない。アスリート委員長についてはJOCからの指導であるので、そのあたりの文言を変える必要がある。

小斎氏：わかりました。

#### その他

仲間専務理事：加盟団体規程においてしっかり行う必要がある。正会員の皆様にもしっかりと加盟団体規程の作成、地方版のガバナンスコードを入手して各都道府県連盟の運営が必

要である。こちらに関しても密に連絡をとりながら行いたいのでよろしくお願ひします。

西山氏：以前の協賛金は地方連盟に入れていたが、今年度は日本連盟に入れている。システムが変わったのか？

豊田事務局長：日本連盟主催の大会においては、協賛金も会計に含めないとならないことや助成金をとってきていることから、協賛金は開催地に支給しますが、協賛金の収支、決算に関しても日本連盟で行うことになった。

西山氏：その他にも質問がありますので、後程よろしくお願ひします。

#### 閉会挨拶

内田会長：皆様、お疲れさまでした。これで臨時総会を終了します。今後ともボクシング界、選手のために頑張っていきましょう。ありがとうございました。